

# ホストタウンによる地域活性化シンポジウム

地域を元気にするヒントがきっと見つかる！

## 実施報告書



平成 29 年 5 月 17 日 (水)

拓殖大学文京キャンパス

地域活性学会

## INDEX

○ シンポジウムのご報告 .....	1
○ 開催主旨・開催概要 .....	2
○ プログラム .....	3
○ 参加者数 .....	4
○ 実施概要	
・ 開 会 .....	5
・ 第1部 シンポジウム・分科会 .....	6~10
・ 第2部 交流会・名刺交換会 .....	11~12
○ プロモーション活動 .....	13~14
○ 取材メディア .....	15
○ アンケート .....	16~17

## ホストタウンをまちづくりの契機に ―オリパラシンポジウムのご報告―

「ホストタウンによる地域活性化～地域を元気にするヒントがきっと見つかる！～」と題したシンポジウムを平成29年5月17日（水）13時から拓殖大学文京キャンパスで行いました。

はじめての事で心配しましたが、会場いっぱいとなる450名を上回る皆さんの参加を得て盛況のうちに終了する事ができました。

シンポジウムは、主催者代表の大宮会長のご挨拶でスタート。続いて、すばらしい会場を提供していただいた拓殖大学の川名学長のご挨拶、さらに鈴木大地スポーツ庁長官の特別講演と続けました。

このシンポジウムは、スポーツ振興部会が中心となって開催にこぎ着けたものです。開催のきっかけは政府の提唱したホストタウン構想。これはオリンピック・パラリンピック東京大会に参加する世界の人々と日本各地の市町村がホストとして交流することで、我が国あげて大会を盛り上げていこうというものです。

既に140近い団体が政府に登録されていますが、具体的にどのような事業を実施していくのかまだまだ手探りだとの声が聞こえてきました。でも、後世の人達に2020があったからこそというレガシーを残せないものか？単に大会の受け入れだけにとどまるのではなく、2020以降も含めた地域活性化の仕組みを、ホストタウン活動を通じて創ってゆけないか？地域活性学会としてそのことを訴えてゆく活動のキックオフとしてこのシンポジウムを計画しました。

活動の切り口は多様なものになるでしょう。パラリピックを契機として障がいをもつ人とそうでない人との共生社会の構築を目指す活動、ロンドンオリパラの文化プログラムのように、地域の伝統文化を磨き上げて世界に発信する活動、観光基盤をより充実させてインバウンド増加を狙う活動、地域の食文化をより洗練させたものにしていく活動等、様々なことが想定されます。

そんなことを前提としてシンポジウム後半はまちづくり、文化、観光、共生社会という4つのテーマの分科会で参加者の皆さんとともに考える場を持ちました。そしてそれぞれがしっかりと手応えを得る事ができました。とはいえ、まだまだ語り合い、追求していかなければ行けない事は山積です。それらのことは、今回頂戴したアンケートの結果も踏まえて、今後のシンポジウムのテーマにしていくことにしています。

さらに、この日の第2部として、参加者の皆さんとの情報と名刺交換のための交流会も実施しました。この場には、大宮会長の高等学校の先輩にあたる遠藤利明前オリンピック・パラリンピック担当大臣も駆けつけていただき、ご挨拶を頂戴する事ができました。缶ビール片手の会合ですが、参加する皆さん同志お国自慢かたがたのネットワーク構築の場となり、大いに盛り上がった事をご報告しておきます。

活動に携わるメンバーが、まず楽しむところからまちづくりは始まります。地域活性学会のこの理念も、参加者の皆さんに理解してもらったのではないかと考えています。今後の展開がどのようなものになってゆくのか私自身楽しみが大きく膨らんできています。

最後に、このシンポジウムの開催にあたり会場の提供をはじめ多大なご支援をいただいた拓殖大学の皆さま、また、ご後援をいただいた内閣府をはじめとしたすべての皆さまに心から御礼を申し上げますとともに今後の引き続きのご支援をお願いし、あわせて第二回目以降の会合にもふるってご参加くださいとお願いしてシンポジウムの報告に替えさせていただきます。

平成29年5月

地域活性学会 副会長  
同スポーツ振興部会 代表幹事 御園慎一郎



## 開催主旨

私たちは、2002年開催のFIFAワールドカップ日韓大会をはじめ、数々の国際大会を経験してきました。この国際大会は、私たちに数多くの地域の活性化という資産を残してくれました。2019年にはラグビーワールドカップ、2020年には東京オリンピック競技大会、パラリンピック競技大会、そして2021年には関西ワールドマスタースゲームズが開催され、全世界から注目と関心が集まります。

その中で、今、全国各地では東京オリパラ開催に向け、「スポーツ立国」「グローバル化の推進」「地域活性化」「観光振興」等に資する観点から、大会参加国・地域との人的・経済的・文化的相互交流をはかる「ホストタウン」としての指定を受け、あるいは指定を受ける動きが拡がりを見せています。

まさに、東京オリパラ大会が東京のものだけでなく、日本全体で世界を受け入れるビッグイベントになることを示していると言えるでしょう。また、東京オリパラに限らず、これからはじまるビッグイベントは、国民、地域住民が一つにまとまるまたとないチャンスです。

そこで、私たち地域活性学会では、本シンポジウムにより、「ホストタウン構想の推進がもたらす全国各地の地域づくり・地域活性化」の可能性を参加者の皆さんとともに見出したいと思えます。

そして、「ホストタウン構想」推進による地域づくり・地域活性化の実現のため、地域活性学会が有する各種資産を提供し、更に、地域活性化に関わる各種情報、事例、政策あるいは熱き思い（念い）がある人たちが集まる、又は共に連携できる環境（プラットフォーム）づくりを進めてまいります。

## 開催概要

名 称： ホストタウンによる地域活性化シンポジウム

日 時： 平成29年5月17日（水）  
第1部 シンポジウム・分科会 13:00～17:15  
第2部 交流会・名刺交換会 17:30～19:00

会 場： 拓殖大学 文京キャンパス E館（後藤新平・新渡戸稲造記念講堂）ほか

参加費： 無料（第2部については500円）

主 催： 地域活性学会

後 援： 内閣府、総務省、厚生労働省、スポーツ庁、文化庁、観光庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、全国都道府県議会議長会、全国市議会議長会、全国町村議会議長会、東京都、文京区、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、日本パラリンピック委員会、一般財団法人地域活性化センター、一般財団法人自治体国際化協会、公益社団法人日本青年会議所2017年度稼ぐ地域推進委員会、拓殖大学

協 力： 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

## プログラム

### 主催者挨拶

地域活性学会 会長 大宮 登

### 歓迎の挨拶

拓殖大学 学長 川名 明夫 氏



### 第1部

#### 基調講演 13:00～14:50

会場：E館 後藤新平・新渡戸稻造記念講堂

特別講演 スポーツ庁長官 鈴木 大地 氏

基調講演 「オリパラと地域の活性化」

内閣官房オリパラ事務局 企画・推進統括官 多田健一郎 氏

#### 地域活性化スペシャル・セミナー 15:05～17:15

会場：E館 後藤新平・新渡戸稻造記念講堂／C館 101 教室

テーマ① 「パラリンピックから広がる地域の共生」  
拓殖大学商学部准教授 松橋 崇史 氏

テーマ② 「スポーツツーリズムとインバウンド観光」  
筑波大学大学院准教授 JSTA 理事 高橋 義雄 氏  
運営協力：一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構

テーマ③ 「文化オリンピックからの地域の活性創出を」  
株式会社ニッセイ基礎研究所 社会研究部 研究理事 吉本 光宏 氏

テーマ④ 「今こそホストタウン！ 地域を変える・日本が変わる」  
東京都教育庁指導部  
オリンピック・パラリンピック教育調整担当課長 鈴木 基成 様

### 第2部

#### 交流会・名刺交換会 17:30～19:00

会場：E館 展望ラウンジ

## 参加者数

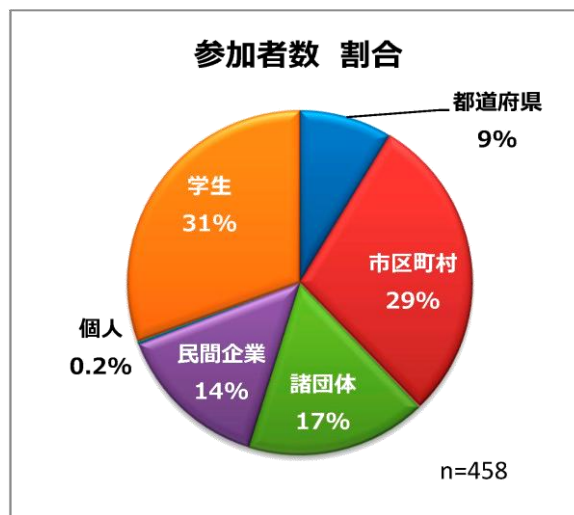
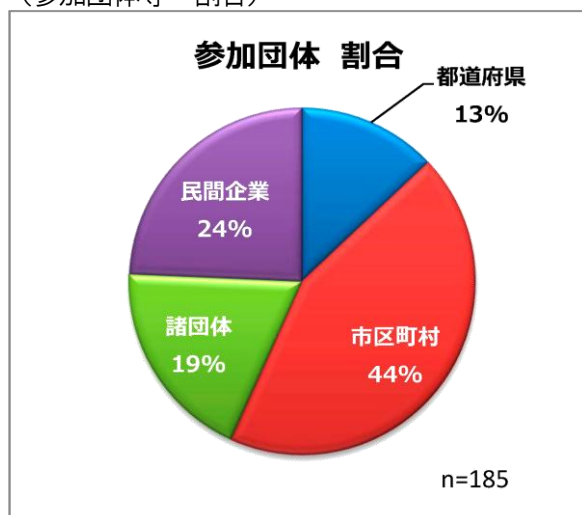
### 第1部：185 団体 / 458 名

(内 訳) 都道府県： 24 自治体 / 40 名  
 市区町村： 81 自治体 / 133 名 計 105 自治体 / 173 名  
 (上記のうち、ホストタウン登録自治体： 56 自治体 / 93 名)  
 地域づくり団体・大学： 35 団体 / 78 名  
 民間企業： 45 企業 / 66 名  
 個人： 1 名 大学生(聴講)： 140 名

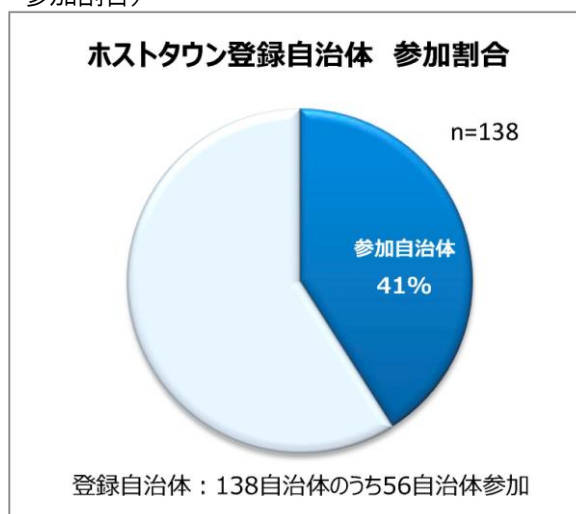
(参加団体等 所在都道府県)

北海道、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、島根県、岡山県、山口県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県 / 37 都道府県

(参加団体等 割合)



(ホストタウン登録自治体 参加割合)



### 第2部：150 名



## 実施概要

### 開 会

司会進行：地域活性学会スポーツ振興部会 松橋 崇史

#### ○主催者挨拶

地域活性学会 会長 大宮 登



#### ○学長挨拶

拓殖大学 学長 川名 明夫 様



#### ○メッセージ披露

公益財団法人  
東京オリンピック・パラリンピック  
競技大会組織委員会 会長代行  
衆議院議員 遠藤 利明 様



## 第1部：シンポジウム・分科会

### ○特別講演

講演者：スポーツ庁長官 鈴木 大地 氏

(プロフィール)

昭和63年 ソウルオリンピック 金メダル(100メートル背泳ぎ)  
平成5年3月 順天堂大学大学院体育学研究科コーチ学専攻修了  
平成19年2月 博士(医学)を取得  
平成25年4月 順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ科学科コーチング科学  
コース教授(～平成27年9月30日まで)  
平成15年9月 世界オリンピックズ協会理事(～平成27年10月まで)  
平成25年4月 日本オリンピックズ協会会長  
平成25年6月 日本オリンピック委員会理事(～平成27年9月30日まで)  
平成25年6月 日本水泳連盟会長(～平成27年9月30日まで)



スポーツには人を動かす「チカラ」があり、その「チカラ」を活かして地方を元気にする。

スポーツの要素と地域資源を掛け合わせることから、交流人口の増加につながり、そして地域が活性化し、そこから新たなビジネスチャンスが生まれ地域の経済活性化につながるのではないかと。

スポーツ庁として、スポーツによる地域活性化を進めるために、全国にスポーツコミッション組織を拡げることが必要であり、2021年度末までに170団体を目指す。といったお話がありました。

その他、スポーツ庁での各種取り組みや先進地事例についてご紹介いただきました。

### ○基調講演：「オリパラと地域の活性化」

講演者：内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック  
競技大会推進本部事務局企画・推進統括官 多田健一郎 氏

(プロフィール)

1986年自治省(現総務省)入省  
総務省では政治資金課、財務調査課、官房総務課等で、また内閣府政策統括官(沖縄担当)で勤務  
富山県、姫路市、静岡県、香川県、北海道と5つの自治体行政を合計17年以上で経験



ホストタウンによるレガシーづくりへの期待として、文化プログラムを活用して世界へ情報発信。日本の食材や食文化の発信。外国人そして高齢者や障がい者にも優しいまちづくり。といった取り組みを。

しかし、取り組む以上は楽しんでやってもらいたい。また仲間を増やしながら地域の活性化に取り組んでいくことが大事ではないかと。

事前キャンプ誘致やスポーツ交流に留まらないレガシーづくりに期待したい。といったお話をいただきました。



## 〇分科会

### テーマ①「パラリンピックから広がる地域の共生」

コーディネーター：拓殖大学商学部准教授 松橋 崇史 氏

(プロフィール)

拓殖大学商学部准教授（スポーツマネジメント／経営学総論担当）  
慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員、慶應義塾大学 総合政策学部 非常勤講師  
一般社団法人 スポーツによる地方創生推進会議 代表理事  
専門：スポーツマネジメント、スポーツ政策、コミュニティ論、ソーシャルイノベーション



パラリンピックから広がる地域の共生のセミナーでは、パラリンピックに関連した活動を推進し、地域の共生社会の実現に結びつけるため（パラリンピックのレガシーを作るため）の切り口を検討しました。

まず、冬季パラリンピックの種目であるアイススレッジホッケーの日本代表に対して国産の用具を提供するという新潟県三条市の取り組みを、三条市商工課より報告頂きました。

競技界のニーズを掴み、協力関係を構築し、地域の資源（ものづくり技術）を用いてそれを解決するという方法論をご紹介頂きました。



続いて、新潟県十日町市で推進されている障害者スポーツの普及についてご紹介頂きました。

十日町市では、新潟県障害者スポーツ協会との連携の中で、障害者スポーツを行うサークルが創設され、その後、スポーツ庁の「地域における障害者スポーツ普及促進事業」を受託し事業を推進する中で、健常者と障害者が共に行えるボッチャ大会を成功させ、その成功に至る工夫についてご紹介頂きました。

三条市、十日町市ともに障害者スポーツが抱えるニーズや課題を捉えてそれを解決していこうというスタンスであり、他自治体が推進するにあたって参考になる内容となりました。



質疑応答では、茨城県東海村の山田村長から感想を頂くなど、何名かからコメントを頂き終了。

基調講演からセミナーに移行し、参加者にとって身近な話題になったことから聴者の反応もよく、参加自治体の活動のヒントになる企画だったと思われます。

## テーマ②「スポーツツーリズムとインバウンド観光」

コーディネーター：筑波大学大学院准教授 JSTA 理事 高橋 義雄 氏



(プロフィール)

東京大学教育学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。

1998年より名古屋大学助手、エジンバラ大学客員研究員（2003-2004年）。

2008年より筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻准教授として、社会人を対象にスポーツマネジメントを教育・研究。

2015年からは筑波国際スポーツアカデミー(TIAS)のスポーツマネジメント分野ディレクター。

専門はスポーツ社会学、スポーツマネジメント。

現在、日本卓球協会評議員、日本トップリーグ連携機構事業推進委員会アドバイザー、日本スポーツツーリズム推進機構常任理事、アリーナスポーツ協議会理事。行政では、スポーツ庁スポーツ未来開拓会議委員、経済産業省産業構造審議会地域経済産業分科会臨時委員、秋田県スポーツ推進審議会委員、豊田市スポーツ推進審議会委員長。

スポーツツーリズムとインバウンド観光のセミナーでは、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)の協力を得て、JSTA理事であり地域活性学会会員の青木淑浩氏とJSTA監事の吉永憲氏を迎えて、スポーツツーリズムがなぜ今注目されるかについてコーディネーターの高橋義雄が説明したのちに、具体的な成功事例の成功要因についてお互い議論を行いました。



吉永氏からは一般論としてのインバウンド観光振興に必要な取り組みについて、青木氏からは旅行代理店の視点から見たスポーツツーリズムを得意とする旅行社の事例と志摩におけるサイクリング振興の事例紹介がありました。

地域活性化にスポーツツーリズムによるインバウンドを考えた場合の地域の取り組みについて、事例を通じて知見を参加者と共有ができたと思われます。





### テーマ③「文化オリンピックからの地域の活性創出を」

コーディネーター：株式会社ニッセイ基礎研究所 社会研究部 研究理事  
吉本 光宏 氏



(プロフィール)

早稲田大学大学院（都市計画）修了後、社会工学研究所などを経て 1989 年からニッセイ基礎研。東京オペラシティ、世田谷パブリックシアター、国立新美術館、いわきアリオス等の文化施設開発、東京国際フォーラムや電通新社屋のネットワーク計画などのコンサルタントとして活躍する他、文化政策、創造都市、オリンピックと文化等の調査研究に取り組む。

現在、文化審議会文化政策部会委員、東京藝術大学非常勤講師等を務める他、文化庁 2020 年に向けた文化イベント等の在り方検討会座長、東京芸術文化評議会評議員／文化プログラム検討部会部会長、文科省オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議委員、東京都東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議委員、(公社)企業メセナ協議会理事、NPO 法人アート NPO リンク理事などを歴任。

オリンピック憲章（第5章オリンピック競技大会の39条）には-「OCOG（オリンピック競技大会組織委員会）は、少なくともオリンピック村の開村から閉村までの期間、文化イベントのプログラムを催すものとする。このプログラムは、IOC 理事会に提出し、事前に承認を得なければならない」とあります。

2012年ロンドン五輪・文化プログラムの実績（リオ2016大会では低調に終わった）について詳細な説明がありました。

- ・英国全土1,000箇所以上で開催：地方小都市、町村含む文化施設、歴史的建造物、公園、通り、広場、自然環境、浜辺など
- ・アスリートと同じ204の国と地域から4万464名のアーティストが参加
- ・テーマ・ビジョン：英国の誰もがロンドン2012に参加するチャンスを提供し、あらゆる文化に共通する創造性をとりわけ若者たちに喚起させること。一生に一度きり（Once in a Lifetime）

競技大会のあったロンドンだけではなく、英国全土で文化プログラムが実施され、マンチェスターを中心としたウェストミッドランド地域でも次のような実績と成果がありました。

- ・イベント・活動数：11,450件（事業数：986件、世界初演：77件、英国初演：10件）
- ・参加者数：290万人、地域への経済効果：3,280万ポンド（58.7億円）、関連する経済活動規模：1億1,200万ポンド（200億円）、雇用効果：130名、パブリシティ効果：1,100万ポンド（19.6億円）社会的なリターン（健康、自信、社会生活の改善）の価値：約3,430万ポンド（61.4億円）

その結果、「2012年ロンドン大会は、英国文化のショーケースとなり、文化はオリンピック・パラリンピック競技大会の不可欠な部分だと見なされた。若者たちの才能や技能の向上を支援することを目的にした様々なチャンスが提供された」という評価レポートも公表されています。

東京2020大会と文化オリンピックはきっかけ。何ができるか？を真剣に考えることが何よりも重要ですが、例えば次のようなことも手がかりになるかもしれません。

- ・「オリンピック・パラリンピック」だからできること
- ・「オリンピック・パラリンピック」じゃなきゃできないこと
- ・かつてない規模・斬新さ・挑戦（リスクテイキング）
- ・圧倒的な市民参加
- ・戦略的国際交流（ホストタウン）
- ・海外発信（21年以降インバウンド）
- ・（子どもたちやお年寄りの）記憶に残るイベント
- ・オリンピック・パラリンピックの価値の追求

オリンピックの文化プログラムは、他の地域でもやっているから、「やった方がいい」あるいは「やらなきゃいけない」ということではなく、「絶対やりたい、わくわくしてきた、何かできそう!!」と思いながら取り組むことが肝要です。



## テーマ④「今こそホストタウン！ 地域を変える・日本が変わる」

コーディネーター：東京都教育庁指導部オリンピック・パラリンピック  
教育調整担当課長 鈴木 基成 氏



(プロフィール)

中央大学法学部卒業後、東京都に入庁。

これまで、市町村アカデミー助教授、都福祉保健局及びオリンピック・パラリンピック準備局の区市町村調整担当課長を経て、2017年4月から現職。2020大会を、地域活性化の千載一遇のチャンスととらえ、地域レガシー形成に向け尽力している。

### 1 地域活性化の一つの手法としてのホストタウンの活用 ～ホストタウンをつなげる！ひろげる！～

- ・ 2020年大会は、「地域活性化の千載一遇のチャンス」であり、「オリパラ大会をうまく活用」することが重要  
⇒ 「ホストタウン」も地域活性化策の一つの好機として「活用」！
- ・ ホストタウンの要件として、「事前合宿受入」は必須要件でなく、大会後の交流も可とされており、既に多くの自治体で取り組んでいる事項である。
- ・ ポイントは、ホストタウンは、「スポーツの振興、教育文化向上及び共生社会の実現を図ろう」とするものであり、多様な地域活性化につなげていく可能性のある取組ということである。

### 2 ホストタウン登録事例の紹介 ～ホストタウンをつなげる！ひろげる！～

- ・ 相手国とはあらゆる伝手をたどって交流に結びついている。
- ・ 交流のねらいは、単なるスポーツ振興だけでなく、地域特産物の産業交流、人的な国際交流、文化交流など、地域特性に応じた交流が行われている。
- ・ 交流国を切り口として、交流国が同じである国内の自治体同士の交流につなげることも、地域活性化に向けた取組のヒント

### 3 ホストタウン登録に向けた具体的な取組 ～担当者がつなげる！ひろげる！～

- ・ 地域の誇るべき宝、資源は何か？(what)、その宝をどうやって魅力を最大限高めるか？(how)、魅力を高めるため協力してくれる人は誰か？(who)、今～2020年～大会後、どうしていくか？(when)

### 4 東京都におけるオリパラ教育の取組 ～オリパラ教育をつなげる！ひろげる！～

- ・ 東京都のオリパラ教育は、多様性に富み、創意工夫をこらした内容である。
- ・ 他自治体でのオリパラを契機とした教育の取組のみならず、教育分野以外（産業・観光・文化・環境等）の取組の参考となるネタが満載！

### 5 2020年大会に携わる方へのメッセージ

オリンピック・パラリンピックへ携われるのは、一生に一回のチャンスです！オリンピック・パラリンピック大会に向け、みなさん自身が、どうぞ、楽しみながら取り組んでみてください！



## 第2部：交流会・名刺交換会

参加者の皆さんとの情報と名刺交換のための交流会も実施。缶ビール片手の会合でしたが参加する皆さんから地元の銘酒、特産品等のお国自慢かたがたのネットワーク構築の場となり大いに盛り上がった大変楽しい会合となりました。

活動に携わるメンバーがまず楽しむところからまちづくりは始まるという地域活性学会の基本姿勢も参加者の皆さんに理解してもらえたのではないかと考えています。

司会進行：地域活性学会スポーツ振興部会 副代表幹事 福崎 勝幸

### ○開会あいさつ

地域活性学会スポーツ振興部会 代表幹事 御園慎一郎



### ○ご来賓あいさつ

公益財団法人  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
会長代行 衆議院議員 遠藤 利明 様



### ○乾杯

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局  
地方創生統括官 唐澤 剛 様





○ご歓談（名刺交換・情報交換）

○参加自治体・団体によるお国自慢紹介



○閉会あいさつ

地域活性学会 常任理事 上西 康文





## 地域活性化学会 ホストタウンによる地域活性化 シンポジウム

**地域を元気にするヒントがきっと見つかる!**

**2017 5/17** 開催 ご来場  
ありがとうございました

講演①

特別講演

スポーツ庁長官  
鈴木 大地氏



講演②

「オリパラと  
地域の活性化」

内閣官房  
オリパラ事務局  
企画・推進課長官  
多田 健一郎氏



セミナー①

今こそホストタウン!  
地域を変える・日本が変わる

セミナー②

地域伝統文化を世界発信

セミナー③

スポーツツーリズムと  
インバウンド観光

セミナー④

パラリンピックから広がる  
地域の共生

### お知らせ

一覧を見る

2017.4.5

[ホストタウンによる地域活性化シンポジウム開催!](#)

2017.4.5

[「地方行政」第10720号\(2017年5月8日付\)に掲載!](#)

01



ホストタウンによる地域活性化シンポジウム

Coming Soon



Coming Soon





- ・ [当機構について](#)
- ・ [代表挨拶](#)
- ・ [団体概要](#)

- ・ [主催イベント](#)
- ・ [ホストタウンによる地域活性化シ](#)

- ・ [事業内容](#)
- ・ [目的・事業](#)

- ・ [入会案内](#)

- ・ [メンバー限定](#)

一般社団法人地域社会活性化支援機構

電話: 03-5689-8026

東京都文京区小石川1-28-3 NISP小石川

**地域活性化学会とは**

- ・ごあいさつ
- ・設立趣意書
- ・発起人一覧
- ・役員
- ・会則
- ・事業計画
- ・団体会員

**■入会について**

- ・入会のご案内
- ・申込フォーム(個人)
- ・申込フォーム(団体)

**■研究大会**

**■研究部会**

**■支部活動**

**■各種行事**

**■研究誌**  
「地域活性化研究」

**■「地域活性化研究」投稿**

**■リレーエッセイ**

**■事務局**

**■よくある質問**

**■お問合わせ**

[ENGLISH]

[会員ページ ログイン]



第9回研究大会

テーマ「課題先進地における地方創生への挑戦」  
2017年9月1日(金)～3日(日)  
島根県立大学・浜田キャンパス(島根県浜田市)で開催

[一覧]

- 2017/05/09  
5月17日(水)「ホストタウンによる地域活性化シンポジウム」お問合せ先につきまして
- 5/17(水)に開催されますシンポジウムにつきまして、大変関心が高く多くのお問い合わせをいただいております。イベントにつきましてのお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。(お問い合わせは、なるべくメールにてお願いします)
- 【参加申込・お問い合わせ】  
ホストタウンによる地域活性化シンポジウム 開催事務局  
地域活性化学会スポーツ振興部会 副代表幹事  
福岡勝幸(フクザキ カツユキ)  
メール: tk@kuzaki-nishiki.or.jp  
TEL: 025-757-1889(株式会社トリムコーポレーション)
- 2017/04/24  
『研究部会』スポーツ振興部会「ホストタウンによる地域活性化シンポジウム申込受付中」  
2017年5月17日(水) 場所: 拓殖大学 文京キャンパス 3館  
講演者: スポーツ庁長官 鈴木大地氏、内閣官房 多田健一郎氏
- 2017/04/17  
研究論文集「地域活性化研究」Vol.8 目次を掲載いたしました。  
会員の方はPDF形式の論文本文を閲覧・ダウンロードいただけます。
- 2017/03/15  
『地域活性化学会 第9回研究大会』「一般研究発表」「自治体・団体による事例発表」募集  
テーマ「課題先進地における地方創生への挑戦」  
日程: 2017年9月1日(金)～3日(日)  
場所: 島根県立大学 浜田キャンパス(浜田市野野町)
- 2017/02/14  
『リレーエッセイ』第15回～第21回を掲載いたしました。
- 2017/01/06  
新連載『リレーエッセイ』を掲載いたしました。
- 2017/01/05  
「新年のご挨拶」地域活性化学会会長 大宮 登
- 2017/01/05  
1/21(土) 関東支部 研究部会「経済レジリエンスのある都市を特定する」  
2017年1月21日(土)14:00～ 場所: 拓殖大学 文京キャンパス
- 2016/10/14  
『研究部会』「公益資本主義推進研究部会」「官民パートナーシップ研究部会」設立しました
- 2016/10/12  
研究誌「地域活性化研究 Vol.8」への投稿を受付中です。  
エントリー(事前登録): 2016年10月31日(月)まで  
原稿提出締切: 2016年11月13日(日)
- 2016/9/14  
『研究部会』「スポーツ振興部会」第8回研究大会 特別セッション開催  
2016年9月3日(土)第8回研究大会において、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて各地の自治体を取り組んでいる「ホストタウン」をテーマに特別セッションを開催いたしました。
- 2016/9/14  
『役員』『事業計画』を更新しました
- 2016/9/13  
『地域活性化学会 第8回研究大会』大会報告 & 写真レポートを掲載しました

地域活性化学会 事務局  
〒107-8411 東京都港区南青山3-13-16 事業構想大学院大学 事務局内  
TEL: 03-3478-8411 Email: chikai@mpd.ac.jp

Copyright © 2008-2014 The Japan Association of Regional Development and Vitalization. all rights reserved.

## 取材メディア

### 19 媒体

NHK	SPORT INNOVATORS online
産経新聞	日経アーキテクチュア
日本経済新聞	月刊事業構想
毎日新聞	時事通信
北海道新聞	共同通信
スポーツニッポン	共同通信
日刊スポーツ	共同通信
上越タイムス	文化放送
月刊体育施設	侍スポーツ
交通新聞	


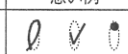
## シンポジウム参加者アンケート

この度は、ホストタウンによる地域活性化シンポジウムにご参加頂き誠にありがとうございます。地域活性学会では、引き続き、このようなシンポジウムの機会を通して、ホストタウンによる地域活性化に貢献していきたいと考えております。今後のシンポジウムの内容を充実させるためにも参加者の皆様のご感想、ご要望をお聞きしたいと考えております。本アンケートにご回答頂き、お帰りの際に担当者にお渡しください。

《 記入上の注意 》

- 鉛筆か裏うつりしない黒色のペンで、当てはまる回答のマーク ( ) を塗りつぶして (●) ください。
- 機械で読み取りますので、汚したり折り曲げたりしないでください。

《 マークのしかた 》

良い例	悪い例
	

**I** 今回のシンポジウムをどのような情報で知りましたか。

- ( ) 1. 新聞 ( ) 2. 学会のHPをみて ( ) 3. 雑誌記事 (地方行政など) ( ) 4. 職場の同僚からの案内  
( ) 5. 国や県からの情報提供 (メールやチラシ) ( ) 6. その他 ( )

**II** 来場前、今回のシンポジウムの内容の中で、最も期待していたことは何ですか。

- ( ) 1. 政策決定に関わる方々 (鈴木大地スポーツ庁長官など) の講話を聴くことができること  
( ) 2. スペシャルセミナーとしてホストタウンに関係するテーマのセミナーを聞くことができること  
( ) 3. 交流会に参加して、様々な方と交流できること  
( ) 4. その他 ( )

**III** 今後、シンポジウムを開催する場合、その内容として期待することは何ですか。

(1) 「最も期待すること」と「次に期待すること」を1つずつ選択してください。

	最も期待すること	次に期待すること
1. 政策決定に関わる方々の講演	( )	( )
2. ホストタウンに関連する個別テーマの専門家の講演	( )	( )
3. 個別テーマに分かれ、ホストタウン自治体の活動報告の場を設けること	( )	( )
4. 個別テーマに分かれ、活動が萌芽的な段階の自治体も含めて、課題や悩みを共有する場を設けること	( )	( )
5. 参加者間のインタラクションを増やし、各自治体の活動を共有する場を設けること	( )	( )

(2) その他に、シンポジウムの内容として期待することがあれば、ご自由にお書きください。

**IV** 今回のようなシンポジウムを定期的を開催する場合、どの程度の頻度で開催することが適切だと思いますか (シンポジウムの内容は皆様の声を反映して変わっていきます)。

- ( ) 1. 4半期に1度 ( ) 2. 半年に1度 ( ) 3. 1年に1度 ( ) 4. わからない

裏面に続きます。





# 地域活性学会 スポーツ振興部会

一般社団法人 地域社会活性化支援機構 内

URL : <http://www.chiiki.or.jp>

E-mail : [information@chiiki.or.jp](mailto:information@chiiki.or.jp)